

#### (4) 今後の展開（総括）

事業終了後は、フェーズ に掲げた目標（基本計画スケジュール表に対する達成状況）に向け研究を継続する。また、それぞれの研究で培われた以下の基盤技術については、新たな要素も加えて研究を発展させていく。

##### 7. 生命活動の無侵襲（非接触・非破壊）計測技術

光コヒーレンス断層画像化法（OCT）については、コア研究室においてナノレベルの装置化研究などOCTの応用研究に発展的に取り組む。

電気化学顕微鏡原理の応用技術については、簡易型のウシ受精卵呼吸量計測装置の開発研究等について、株式会社機能性ペプチド研究所を拠点にコア研究室を活用しながら北斗電工株式会社、東北大学大学院との連携で取り組む。

##### 4. 有用酵母のライブラリー化と活用技術

新たな構造のマンナンやオリゴ糖を産生する酵母の探索については、対象を広げ山形大学農学部において引き続き取り組む。また、その利用技術研究については、日東ベスト株式会社が他企業との連携を図り、事業化の視点で取り組みを強化する。

新たな酒質を拓く清酒酵母のライブラリー化については、コア研究室にある遺伝子研究設備を活用しながら、県工業技術センターにおいて取り組む。また、その利用技術研究については、県酒造組合との連携で取り組む。

##### 9. 遺伝子解析と活用技術

畜産に関する遺伝子解析と活用技術については、県農業研究研修センターにおいて、DNAマーカーの検出法の簡便化や生体遺伝子診断法への発展研究として、山形大学理学部と連携して取り組む。

植物に関する遺伝子解析と活用技術については、県立園芸試験場において、生殖系など特定部位への遺伝子発現技術の活用を図るとともに、育種の効率化や他の木本類の遺伝子組換えを目指す新たなプロジェクト研究に発展させて取り組む。

#### (5) その他

特になし